

最後まであきらめない！ 松代病院を守る 大集会



声かけ
合っ

11月15日（土）

☆13:30～15:30 松代総合センター

☆「松代病院の歴史」をここで消す訳にはい
かない！ みんなで集まり、輪を広げよう！

○地域医療構想調整会議の含
意で、「松代病院の診療所化」
は、決まったの？

十日町市議会議員 滝沢繁さん

○松代病院のベッド（病床）が、
十日町病院に移ると、どう
なるの？

松代病院医師 小堺浩一さん

○「松代病院診療所化」は、
この地域だけの問題なの？

新潟県議会議員 牧田正樹さん

新潟県議会議員 馬場秀幸さん

「皆様に励まされて」

会長 村山 繁一

松代病院を守る会の署名運動に多くの皆様
方からご協力いただき感謝申し上げます。

署名をお願いする中で「診療所で残ればい
いじゃないの」との声がありましたが、「何と
しても病院として残してほしい」という声が多
く、「頑張ってください」と励まされました

住民説明会では、「県は経営強化プランに沿
った方針で松代病院を残してください」とお
願いし、県庁へも県議の皆様方から応援して
頂き署名を届けてまいりました。また、「魚沼
圏域地域医療構想調整会議」の傍聴にも行き、
「地域住民の要望を聞いて、もっと議論して
ほしい」と思いました。松代病院のように、
小規模だからこそできる「患者に寄り添い心
配してくれる入院機能」を残してほしいです。

県議会議員の先生方、署名に託した願いを
実現していただきますようお願いいたします。

主催「県立松代病院を守る会」 連絡先 十日町市松之山 443(相澤) ☎・FAX 025-596-3710

無床診療所化は地域医療をダメにする

2024年3月策定の「県立病院経営強化プラン」において、松代病院は「民間医療機関の立地が困難な過疎地域において、かかりつけ患者、軽中等症救急患者、急性期を脱した回復期患者などを受け入れるとともに在宅医療を提供しており、医師・看護師・コメディカル部門等の職員を県立病院のネットワークを活用して確保」と書かれています。今回の「無床診療所化」は、この「県立病院経営強化プラン」をわずか半年で反故（ほご）にするものであり、行政のあり様として、絶対にあってはならないことです。また、柿崎病院、妙高病院など他の地域医療病院にも影響を与えかねない問題です。

今回の無床診療所化について、松代病院の小堺医師は、「病院から診療所へと機能が縮小するにあたって最も心配するのは、地域の方々の連携体制だ。入院機能を持つからこそ外来診療や在宅診療、地域連携が可能になる。外来診療だけでは人員も削減されるから、これができなくなり、地域医療の基盤が崩れる。無床診療所化は地域医療を大きく損なうものだ」とのべています。



【リンドウ】（再掲）

リンドウ科の多年草。漢字で「竜胆」と書きます。子どもの頃に見た高田浩吉主演の時代劇映画で浩吉が手に持ったリンドウがあまりにもカッコよくて、いまでも忘れられないでいます。花期は9月から11月。花言葉は「勝利」「正義感」「誠実」などです。写真は今月3日の朝、吉川区竹直にて撮影しました。



今年、三和区で1羽のヒナを育てたコウノトリ夫婦が吉川区にやってきました。5日、下町にて撮影。



第19回「あの頃青春コンサート」は1日に開催されました。会場となったオーレンプラザには400人を超える人たちが集まり、懐かしのフォークなどを楽しみました。最後は「岬めぐり」の大合唱でした。

はしづめ法一の
活動レポート

No.2227 2025.11.9

発行編集 日本共産党上越市議 橋爪のりかず

Tel 025-548-3627

通じないときは 090-5392-1961

E-mail hasiznysg_0808@yahoo.co.jp

URL <https://www.hose1.jp/>



ブログ
「ホーセの見
てある記」は
← こちら

橋爪法一

検索

春よ来い

第八七四回 ドラマいくつも

「あの頃の青春コンサート」を聴きに行くようになって一〇年ほど経ちますが、これほどの盛り上がりを見せ、心を揺さぶられたのは初めてでした。

今回のコンサートで演奏したユニットは「三組です。そのうちのほとんどは何回か聴いているのですが、こういう演奏をしてくれるか気になっていたユニットが一つありました。「二中フレンズ」です。

「二中フレンズ」のメンバーの一人、スワージー（おじ）さんは三年ほど前に病に倒れ半身不随となりました。仲間たちからは「もう二度と歌えないのではないか」という声すら出ていました。しかし、その後、粘り強くリハビリを続け、会話や歌ができるようになり、ひと月半ほど前には直江津の学びの交流館で「歌い手」として復活していました。ただ、復活の舞台では途中で「歌えない」と言って止まってしまったら、「こんなもんさ」と自嘲気味な言葉を発したりすることもありました。

復活を遂げたコンサートでスワージーさんは、今回の「あの頃の青春コンサート」をめざすことを明らかにしました。私はスワージーさんの完全復活を期待する一方で、ひょっとしたら、また歌えなくなるといふ最悪のシーンまで予想していました。

青春コンサートの前半が終わり、休憩後の後半三番目に登場した「二中フレンズ」（オジマキバージョン）、マキさんがキーボードを演奏し、スワージーさんが歌う姿に四百人を超える聴衆の目が集中しました。病気を乗り越え、大きな舞台上に立つ。その姿を見ただけで、多くの聴衆が「よく戻ってきてくれたね」と喜びました。

その喜びが驚きに変わるまで時間はかかりませんでした。一曲目の浜田省吾の『もうひとつの土曜日』を歌い始めてすぐに、ひと月半前とは違うということがわかりました。歌詞を間違えることなく歌い、この

歌の持つ喜びや悲しみを見事に表現できていたからです。「今夜町に出よう 友達に借りた オンボロ車で海まで走ろう」あたりからは、もうノリに乗っていました。

相方を務めたマキさんだけでなく、彼の復活過程を見てきた人たちは、「よくあそこまで歌い切った」「一か月そこそこで、どうしてこんなにうまくいったのか」と絶賛しました。

その後、見事な歌唱力で「クレア」がっなぎ、さらにはスワージー（あに）が山崎ハコの「気分を変えて」をマイクなしで歌い、「向かい風」で会場全体を感動の渦に巻き込みました。弟さんであるスワージーさんの熱唱がベースとなり、盛り上げの力となったことは間違いありません。

この日の演奏では、前半の最後に登場した「吟遊詩人」も会場に人たちに深い感銘を与えました。

メンバーの一人だった山本さんが五月に突然亡くなりました。「吟遊詩人」はその山本さん愛用の帽子とカホンを山本さんの定位置に飾り、高石ともやの『私に人生というものがあるなら』とかぐや姫の『けれど生きている』を心を込めて歌いました。

♪愛していたのにあなたは消えた
♪人生に始まりと終わりがあんなら
見届けてみたい

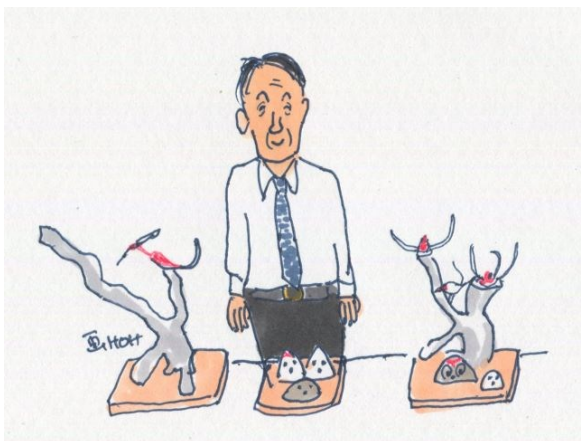
在りし日の山本さんの姿が浮かんでくる歌を聴きながら、私だけでなく山本さんを知る大勢の人が涙を流しました。友人の話では、山本さんのお連れ合いも会場におられ、あふれる感動を抑えることができないほど泣いておられたとのことでした。

「あの頃の青春コンサート」で歌った人たちの多くは六〇代、七〇代。最後の全員合唱、『岬めぐり』を聴いていたら、歌う姿はまだ青春時代そのものだと思います。来年は二〇回目のコンサートだとのこと、どんな青春ドラマがあるのでしょうか。

キバナツノゴマの実を使った作品、見事

2日、大湊区作品展の大ホール会場では、南アメリカ原産のキバナツノゴマ（黄花角胡麻）という植物の果実を使った面白い作品をつくっている土底次（つちぞし）の清水幸雄（ゆきお）さんと出会いました。

この植物とは初めての出会いですが、清水さんの解説がいつに専門的で、しかも楽しい。清水さんは私とほぼ同じ年の人です。研究熱心なのはびっくりしました。どこかで会った方だと思のですが、なかなか思い出せません。そのうち、わかるでしょう。



「石ころ展」にも

3日の文化の日。元上越高校の先生だった大口満（みち）さんなど3人の作家さんによる「石ころ展」（大島画廊）を観てきました。

「石ころ展」では、大口さんの闘病のことや絵の教え子さんとのエピソードなどたっぷり話を聴くことができました。具体的には書けませんが、私にとっても勉強になる話がいくつもありません。



ニュースフラッシュ

上越地域各消防署における 空間放射線量率測定結果

測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。

消防署によると、通常は1時間当たり0.016～0.16μSv（マイクロシーベルト）だとのこと。

	10月29日(水)	11月5日(水)
上越消防署	0.050	0.053
上越南消防署	0.050	0.040
新井消防署	0.050	0.050
頸北消防署	0.057	0.047
頸南消防署	0.067	0.060
東頸消防署	0.057	0.050
名立分遣所	0.057	0.060
高士分遣所	0.057	0.047

春よ来い

第八七四回 ドラマいくつも

「あの頃の青春コンサート」を聴きに行くようになって一〇年ほど経ちますが、これほどの盛り上がりを見せ、心を揺さぶられたのは初めてでした。

今回のコンサートで演奏したユニットは「三組です。そのうちのほとんどは何回か聴いているのですが、こういう演奏をしてくれるか気になっていたユニットが一つありました。「二中フレンズ」です。

「二中フレンズ」のメンバーの一人、スワージー（おじ）さんは三年ほど前に病に倒れ半身不随となりました。仲間たちからは「もう二度と歌えないのではないか」という声すら出ていました。しかし、その後、粘り強くリハビリを続け、会話や歌ができるようになり、ひと月半ほど前には直江津の学びの交流館で「歌い手」として復活していました。ただ、復活の舞台では途中で「歌えない」と言って止まってしまったら、「こんなもんさ」と自嘲気味な言葉を発したりすることもありました。

復活を遂げたコンサートでスワージーさんは、今回の「あの頃の青春コンサート」をめざすことを明らかにしました。私はスワージーさんの完全復活を期待する一方で、ひょっとしたら、また歌えなくなるといふ最悪のシーンまで予想していました。

青春コンサートの前半が終わり、休憩後の後半三番目に登場した「二中フレンズ」（オジマキバージョン）、マキさんがキーボードを演奏し、スワージーさんが歌う姿に四百人を超える聴衆の目が集中しました。病気を乗り越え、大きな舞台に立つ。その姿を見ただけで、多くの聴衆が「よく戻ってきてくれたね」と喜びました。

その喜びが驚きに変わるまで時間はかかりませんでした。一曲目の浜田省吾の『もうひとつの土曜日』を歌い始めてすぐに、ひと月半前とは違うということがわかりました。歌詞を間違えることなく歌い、この

歌の持つ喜びや悲しみを見事に表現できていたからです。「今夜町に出よう 友達に借りた オンボロ車で海まで走ろう」あたりからは、もうノリに乗っていました。

相方を務めたマキさんだけでなく、彼の復活過程を見てきた人たちは、「よくあそこまで歌い切った」「一か月そこそこで、どうしてこんなにうまくなったのか」と絶賛しました。

その後、見事な歌唱力で「クレア」がっなぎ、さらにはスワージー（あに）が山崎ハコの「気分を変えて」をマイクなしで歌い、「向かい風」で会場全体を感動の渦に巻き込みました。弟さんであるスワージーさんの熱唱がベースとなり、盛り上げの力となったことは間違いありません。

この日の演奏では、前半の最後に登場した「吟遊詩人」も会場に人たちに深い感銘を与えました。

メンバーの一人だった山本さんが五月に突然亡くなりました。「吟遊詩人」はその山本さん愛用の帽子とカホンを山本さんの定位置に飾り、高石ともやの『私に人生というものがあるなら』とかぐや姫の『けれど生きている』を心を込めて歌いました。

♪愛していたのにあなたは消えた
♪人生に始まりと終わりがあんなら
見届けてみたい

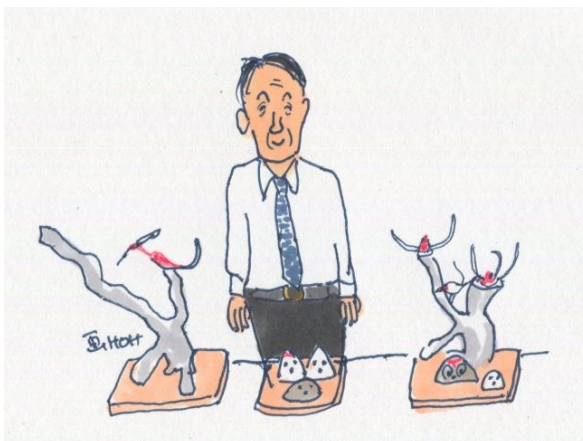
在りし日の山本さんの姿が浮かんでくる歌を聴きながら、私だけでなく山本さんを知る大勢の人が涙を流しました。友人の話では、山本さんのお連れ合いも会場におられ、あふれる感動を抑えることができないほど泣いておられたとのことでした。

「あの頃の青春コンサート」で歌った人たちの多くは六〇代、七〇代。最後の全員合唱、『岬めぐり』を聴いていたら、歌う姿はまだ青春時代そのものだと思います。来年は二〇回目のコンサートだとのこと、どんな青春ドラマがあるのでしょうか。

キバナツノゴマの実を使った作品、見事

2日、大湊区作品展の大ホール会場では、南アメリカ原産のキバナツノゴマ（黄花角胡麻）という植物の果実を使った面白い作品をつくっている土底次清水幸雄さんと出会いました。

この植物とは初めての出会いですが、清水さんの解説がいつに専門的で、しかも楽しい。清水さんは私とほぼ同じ年の人です。研究熱心なのはびっくりしました。どこかで会った方だと思のですが、なかなか思い出せません。そのうち、わかるでしょう。



吉川区の作品展にも

吉川区の作品展は1日、2日と吉川コミプラで開催されました。

会場には油絵、ちぎり絵、押し花、竹細工などの作品が並びました。私も昨年に続き、コウノトリ写真を展示し、見ていただきました。

今回も押し花などの作品教室があり、子どもたちが喜んでいました。



ニュースフラッシュ

上越地域各消防署における空間放射線量率測定結果

測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。

消防署によると、通常は1時間当たり0.016~0.16μSv(マイクロシーベルト)だとのこと。

	10月29日(水)	11月5日(水)
上越消防署	0.050	0.053
上越南消防署	0.050	0.040
新井消防署	0.050	0.050
頸北消防署	0.057	0.047
頸南消防署	0.067	0.060
東頸消防署	0.057	0.050
名立分遣所	0.057	0.060
高士分遣所	0.057	0.047